

# 平成27年度 美術館企画展実施報告書

展覧会名	会期	展示室	内容	入場者数
1 大分県立美術館開館記念展vol. 1 モダン百花繚乱「大分世界美術館」 －大分が世界に出会う、世界が大分に驚く 「傑作名品200選」－	4月24日 (金) ～ 7月20日 (日)	展示室 A・B	古来、異文化との交流を通じて、進取の気風に富んだ独特の文化を築き上げ、多くの芸術家を輩出してきた大分。 開館記念展では、こうした芸術風土を踏まえ、「モダン」をキーワードに精選された古今東西の巨匠の名品が、ここ大分の地で出会い、地元の美術とも響き合う壮麗な百花繚乱の美の世界を、伊藤若冲、横山大観、ターナー、マティス、モンドリアンら約200点の作品からなる全5章の構成で紹介した。	75,320人 (別に小学生招待 58,660人)
2 「進撃の巨人展 -WALL OITA-」	8月1日 (土) ～ 8月30日 (日)	展示室 A	累計発行部数4200万部を超えるマンガ「進撃の巨人」の原作者、諫山創(いさやまはじめ)氏は大分県日田市出身。本展では、この国際的な人気を博す「進撃の巨人」の原画や資料類はもちろん、立体造形や映像なども織り交ぜながら、絶望と恐怖に彩られた物語の世界観や、巨人との戦闘シーンをスピード感たっぷりに体感できるよう会場構成にも工夫を凝らして、原作の魅力を多角的に紹介した。	64,161人 (別にシアター哮 26,464人)
3 「『 <sup>か</sup> 描く!』マンガ展」 ～名作を生む画技に迫る－描線・コマ ・キャラ	8月1日 (土) ～ 9月23日 (水)	展示室 B	国際的にも高い評価が与えられている日本マンガ隆盛の背景には、実際にマンガを描いた経験を持つ分厚い読者層の存在と、そこから次代のクリエイターが育ってきたという好循環がある。 本展覧会では、手塚治虫、石ノ森章太郎、藤子不二雄をはじめ、さいとう・たかを、竹宮恵子ら巨匠や人気作家の原画や資料の紹介だけでなく、技法や作画の影響関係なども読み解きながら、日本マンガの奥深い魅力を紹介した。	18,012人
4 大分県立美術館開館記念展vol. 2 「神々の黄昏」 －東西のヴィーナス出会う世紀末、 心の景色、西東	10月31日 (土) ～ 1月24日 (日)	展示室 B 展示室Aの一部	洋の東西を問わず、「聖なるもの」は古くから芸術創造の靈感源であり、地元大分でも、八幡信仰や神仏習合において数多くの造形物が形作られてきた。 開館記念展vol. 2と銘打った本展では、こうした信仰の対象となってきた遺物や民俗資料に、クリムトやシュタイナー、藤島武二や高山辰雄の作品等、深い精神性を宿した美術品も多数織り交ぜながら、豊かな精神世界に捧げられた多種多様な美の在り様を、国際的視野の中で紹介した。	22,151人 (別に小学生招待 2,287人)
5 「身も心も!現代アートに恋い焦がれて －利岡コレクション+大分アジア彫刻展」	2月12日 (金) ～ 3月13日 (日)	展示室 B	「出会いのミュージアム」「五感のミュージアム」を掲げ、地域のハブ的な機能を有する県立美術館として、県内各地の美術資源にスポットをあて、大分の芸術文化のポテンシャルを紹介する企画の第一弾。 今回は、関西の著名なコレクター・利岡誠夫氏が蒐集した現代アートの作品と、豊後大野市の朝倉文夫記念美術館が所蔵する大分アジア彫刻展の入賞作など、約150点を紹介した。	4,782人